

2019年度 日本ユネスコ国内委員会・文部科学省 日本／ユネスコパートナーシップ事業

近畿・北陸地域 ASPnet 校(小中高)による 日中 ESD/SDGs 学びあい交流会 & 臨場研修会

2019年7月14日(日)
2019年7月21日(日)
2019年8月17日(土)
2019年8月21日(水)・22日(木)
2019年11月4日(月祝)

目 次

1. 事業の概要
2. 準備セミナー日程と学びの項目一覧表
3. ESD/SDGs 学びあい交流会(8月21・22日) 内容と時程表
4. 事業の広報・募集ポスター
5. 事業の考え方・説明スライド
(目的・内容／実施会場と安富町の紹介／年間実施と全体コンセプト)
6. ユネスコスクール全国大会(福山市立大学)での成果発表ポスター
7. 実施写真集
8. 児童生徒の学びの成果
9. ESD 宣言文 (中国生徒を含む ESD 宣言)
10. 資料
 - ・第2回セミナーで講演をいただいた「奥播磨かかしの里」紹介プレゼンデータ
 - ・参加校・地域からの ESD プレゼンデータ
 - ・全参加者一覧

2019 年度 近畿・北陸地域 ASPnet 校(小中高校)による 日・中 ESD/ SDGs 学びあい交流会 & 臨場研修会

－ 概要 －

関西地区のユネスコスクール(小・中・高・大)が集まった「大阪・関西ユネスコスクールネットワーク」では、これまでネットワークに加盟する小中高校生が共に持続可能社会を考える学びあいや、中国・韓国 ASPnet 校と協同した『ESD 国際ワークショップ』を継続して実施してきました。2019 年度は、これら成果を背景として「文部科学省 日本／ユネスコパートナーシップ事業」を受託し、『2019 年度 近畿・北陸地域 ASPnet 校(小中高校)による日・中・(韓) ESD/ SDGs 学びあい交流会 & 臨場研修会』を次の目的で開催いたしました。

- 1) 日ごろの ESD の地道な学びを地域や国を超えて交換し、そこから見える共通の課題を共有します。そして、小さくとも確かな課題解決のための協働を計画し、持続可能社会への希望を日常化する学習を行う。
- 2) 同時に、各地域に「学びあい」の拠点をうちたてることを目指し、学校の枠を超えた学びの創造について生徒や先生方と知恵を出しあいながら ESD や SDGs を担える学びの学校連携への第一歩を構築する。

以上の目的で、下記 3 回の準備セミナーと学びあい交流会(8 月 21・22 日)を姫路市の安富北小学校・姫路市立施設等を拠点にして 1 泊 2 日の「学びあい交流会&臨場研修会」(ワークショップ)を実施し、学齢や地域、国を超えた児童、生徒の学びあいだけでなく、先生方同士も共に学びあう機会として開催されました。

なお、このプログラムは各教科を通じた「主体的・対話的で深い学び」、『総合的な探究の時間』の学習活動を意識した研修でもあり、これらと関連付けて ASPnet としての国際協同学習として位置づけされたものです。このため、事前学習として「準備セミナー」を行い、ユネスコスクールで学ぶものとしての基本的な考え方や ESD 概念を通じた多様な考察と検討過程を平易化して取り入れ、自己の可能性の拡張と成長を意図した学びあいを可能にするようカリキュラムが計画されました。本報告はこれらの諸資料を中心に記録するものです。

1. 主催・共催: 文部科学省／大阪・関西ユネスコスクール(ASPnet)ネットワーク
中国人民大学附属中学(小中高校)／大阪府立大学(受託機関)

後 援 : 大阪府教育庁、奈良県教育委員会、兵庫県教育委員会、
姫路市教育委員会、他

協 力 : 姫路市環境局環境政策室、ふるさとかかし工房
ユネスコスクール支援大学より金沢大学、京都外国語大学、奈良教育大学
2. 実施日 : 学びあい交流会(宿泊日) 2019 年 8 月 21 日(水)・22 日(木) (セミナー等別紙案内)
3. 中国からの来日校 中国人民大学附属小・中・高等学校

4. 参加資格 下記のいずれかの学校(教員・児童生徒)

- 1) ユネスコスクール加盟校
- 2) ユネスコスクール申請中・申請予定の学校

5. 宿泊先
- ① グリーンステーション鹿が壺(中学生・高校生)
〒671-2416 兵庫県姫路市安富町関775
 - ② 伊沢の里(小学生)
〒671-2517 兵庫県宍粟市山崎町生谷214-1



病院等 安富診療所 姫路市安富町安志 1135-1 TEL 0790-66-2387
公立宍粟総合病院 宍粟市山崎町鹿沢 93 TEL 0790-62-2410

6. 活動場所
- ① 安富北小学校 兵庫県姫路市安富町朽原 664 番地 2
 - ② グリーンステーション鹿が壺周辺地域

7. 学びあい交流会(8月21-22日宿泊)内容

近畿・北陸地域のユネスコスクールと中国のユネスコスクールの小・中学生・高校生が集まり、1泊2日の日程で、持続可能な未来や社会の創造に何が必要なのかを探究する学びあい交流会(ワークショップ)を行います。交流会(ワークショップ)の中には以下の3点が含まれます。

- ① 身近な地域や学校の持続可能性を阻害する要因、促進する要因を考えてまとめたプレゼン発表(最大7分間)。
- ② 人と自然の支え合いを考えるために、動植物の生態を観察し、野山を散策するワーク
- ③ 人と人、人と社会が支え合う地域の取り組みを学び、地域の持続性を考えるワーク

8. 移動方法
- ① 北陸地域の方々は、電車で大阪まで向かい(交通費一部補助の予定)、大阪からバスで開催地に向かいます。
 - ② 近畿南地域の方々はJR和歌山駅東口付近よりバスで大阪を経由して姫路に向かいます。
 - ③ 近畿東地域の方々は近鉄奈良駅(予定)近くより、バスで大阪を経由して姫路に向かいます。
 - ④ 大阪地域の方々天王寺・難波・大阪より、バスに分乗して姫路に向かいます。
(いずれもバスの費用はかかりません。参加希望者の人数により、バスの発着、経由場所を変更することがあります。バス乗り場までは交通費原則自己負担です。)

9. 参加申し込み上の注意〔児童・生徒の皆さんへ〕

- ① 学びあい交流会(8月21-22日宿泊)申し込みは、宿泊予約の関係もありますので、必ず参加できることを確かめて申し込んでください。
- ② 参加申し込みは、保護者の同意のもと、各学校の担当の先生を通じて提出してください。
- ③ 持ち物など、詳しくは後日、改めてお知らせします。
- ④ 参加申し込みは、別紙記入の上、担当の先生にご提出ください。

10. 参加人数

対象が地域・校種を超えて広範囲になるため、希望人数により調整させていただくことがあります。

11. 大阪、関西 ASPnet 校準備セミナー活動場所

- ① 大阪府立大学 I-site なんば(南海なんば第一ビル2F) 大阪市浪速区敷津東2-1-41
- ② 大阪府立住吉高等学校 北畠会館 大阪市阿倍野区北畠2-4-1

12. 大阪、関西 ASPnet 校準備セミナー日程 表参照

セミナーの内容は学びの合宿を見据えたものになりますが、準備セミナーのみの参加も可とします

準備セミナー日程と学びの項目一覧表

	学びのねらいキーワード	学びの内容例
<p>第1回 準備セミナー 7月14日(日) 13:30-16:45 (場所) 大阪府立大学 I-site なんば</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いっしょに学びあう仲間を知る ・ESD (支え合い・つながり合い・深め合い続ける:協働する力) を理解する ・学校間の共感的な理解 ・ものの見方考え方を理解する ・公正と平等 ・人として大切なことを考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ:全体オリエンテーション ・仲間づくりアクティビティ ・ESDってなに? Work&Thinking ・協働することの意味を考える ・学校紹介ポスター発表(1校4分) ・平和は思いやりのある人間関係から ・宿題「身近な地域の課題観察」 [プレゼンチーム結成: 人と人、人と社会の支え合い]
<p>第2回 準備セミナー 7月21日(日) 13:30-16:45 (場所) 住吉高等学校 北島会館</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能で生き生きとした地域とは ・問題発見を行動につなげるには ・課題発見力 ・課題解決力 	<ul style="list-style-type: none"> ・講演「奥播磨かかしの里の取り組み」 ～高齢化・過疎化した小さな町に活気が戻る～ 岡上正人さん ・学びを深める「持続可能な地域とは」 ・身近なESDワーク
<p>第3回 準備セミナー 8月17日(土) 10:00-16:30 (場所) 大阪府立大学 I-site なんば</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ESDダンス(劇)の協働制作 ・課題共有 ・課題解決力と創造力 ・人と人、人と社会の支え合いの実感 ・学びを実践につなげる (国際ワークショップの準備) 	<ul style="list-style-type: none"> ・途中で発見した地域の課題を共有 ・音楽に合わせたダンス(劇)づくり ・発表共有 ・ふりかえり ・他地域の友人を迎えようワーク ・プレゼン作成
<p>フォローアップ セミナー 11月4日(日) 13:30～16:45 住吉高等学校 北島会館</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・変容の意識化 ・見えるようになったこと。 ・これからの自分 ・宣言文 ・最終振り返りアンケート記入 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常に戻った今、自分の変化や取り組みを振り返る。 ・何を学んだか。今にどのように影響があるかをまとめる。

ESD/SDGs 学びあい交流会(8月21・22日) 内容と時程表

月 日時	8/21(水)	月日 時	8/22(木)
9:00	バス①近鉄奈良駅 or JR奈良駅発	6:00	起床
9:20	バス②JR和歌山駅東口発	6:20	朝食
10:50	バス③JR大阪駅桜橋口発(北陸チーム) バス内交流	7:10	小学生ホテル出発
12:30	姫路市立安富北小学校到着 昼食	7:20	中高生コテージ前集合
13:15	開会式：挨拶、安富北小学校太鼓 ワークショップの目標共有	7:40	小学生ホテルコテージ前到着
13:30	(1)アイスブレイキング・仲間づくり	8:00	(4)生き物探索ワーク いのちの恩恵、人と自然の支え合い 協力：姫路市環境政策課 〔人と人、人と自然、人と社会〕
14:00	(2)プレゼン交換(私たちの地域とESD) 安富北2、北陸2、奈良2、大阪1、中国2 プレゼン振り返りワーク 中心課題〔人と人、人と自然、人と社会〕	9:00	ワーク終了
15:30	安富北小出発	9:15	コテージ前集合(荷物をまとめて) 出発
16:00	鹿が壺グリーンステーション到着	9:45	安富北小学校に到着 (5)学んだことポスターセッション ポスター作製
16:15	(3)かかしワークショップ 〔人と人、人と自然、人と社会〕	10:45	発表・共有
17:30	集合 ふりかえり・共有 これからの作業確認 係別会議 夕食	11:45	ポスターセッション終了 解散式 片付け(弁当準備)
17:45	小学生、宿に出発	12:00	昼食
18:20	小学生「ホテル伊沢の里」に到着	12:40	安富北小学校出発
18:40	本日の振り返りえりワーク 中高生野外・小学生部屋	14:15	大阪着/解散
19:30	諸注意(宿の過ごし方と明日の予定)		
21:00	小学生就寝		
22:00	中高生就寝		



いろいろな表情の君に出会える

未来を担う若者世代が、自ら考え・気づき・行動する。そして学びを分かち合う。



北陸・近畿ブロックのユネスコスクール構築・発展

近畿・北陸地域 ASPnet 校(小中高)による

日中 ESD/SDGs 学びあい交流会&臨場研修会

主催・共催:文部科学省/大阪・関西ユネスコスクール(ASPnet)ネットワーク

中国人民大学附属中学(小中高校)/大阪府立大学

後援:大阪府教育庁/奈良県教育委員会/兵庫県教育委員会/大阪市教育委員会他、
参加学校を管轄する教育委員会 (いずれも手続き中もしくは予定)

ESD や GAP, SDG s をご存知の先生方や初めて耳にする先生方へ

日本が提案し、世界が共に実践することになった ESD (持続可能な開発のための教育) や SDGs の分かりやすい浸透を目指した学びあい交流会・研修会をご案内します。この企画は、文部科学省ユネスコパートナーシップ事業の委託を受けた大阪府立大学、大阪(関西)ユネスコスクール(ASPnet)ネットワークが、今年度は新たに北陸・近畿地域の ASPnet 校との協働も目指し、「日中 ESD/SDGs 学びあい交流会」を開催するにあたり、その実践プロセスに先生方に入って(臨場して)いただき、参加型で研修を積んでいただくプログラムとして実施いたします。そして、これらを通じて ASPnet 校のネットワークを通じた活動を発展させていきます。

特徴は、持続可能な社会や未来の創造に向けて、「若者世代(小中高大学生)」による異年齢間の連携、学校や地域を越えた連携、そして国や民族を超えた連携の3次元連携を行うことです。

児童生徒ひとりひとりの視野の広がり、学びの成長をどうぞ間近で体感してください。

学びあい交流会に興味がある！という児童生徒のみなさんへ

これからの未来を担うみなさんが、年齢・学校・地域・国・民族を超えた仲間と出会い、共に考え、学びあうことを目的としたとても貴重な機会です。自分の考えを伝えること、相手の考えに耳を傾けること、そしてそこから新しい考えを生み出すこと。いろいろなワークや活動を通して、多くのことを学びあい、自分の成長を感じてください。

日程・会場

第1回準備セミナー

7月14日(日)13:30-16:45

@大阪府立大学 I-site なんば

ASPnet って? SDGs って?

ESD ってなに?

学びの交流の意味を考える

第2回準備セミナー

7月21日(日)13:30-16:45

@大阪府立住吉高等学校

充実した学びに向けて
身近な支え合いを考える

第3回準備セミナー

8月17日(土)10:00-16:30

@大阪府立大学 I-site なんば

学びの友人を迎えるために
ESD プレゼンを考える

日中 ESD/SDGs 学びあい交流会

8月21日(水)~22日(木)

@姫路市立安富北小学校/鹿が壺グリーンステーション宿泊施設

多様性のなかで学びあう・創造する

振り返り

10月13日(日)14:00-16:30

@大阪府立大学 I-site なんば

振り返りと評価

フォローアップ

対象

教員と児童生徒 ※申し込み方法は下記をご覧ください。

費用

2,500円(食費、雑費等)

【お問い合わせ・申込方法】

①氏名②年齢③郵便番号・住所④電話番号⑤勤務校を記載の上、下記宛先までメールにてお申込みください。

※申し込み締め切り：7月10日(水) 定員になり次第締め切り

E-mail : naoii@hs.osakafu-u.ac.jp

伊井 直比呂 宛(大阪府立大学 地域保健学域 教育福祉学類 教授)

※頂いた個人情報は本プログラム運営の目的以外には使用致しません。

2019年度

日本ユネスコ国内委員会 日本／ユネスコパートナーシップ事業

(委託事業)

「地域ブロックにおけるユネスコスクールネットワークの構築・発展」
(ブロック) 「近畿・北陸ブロック」

委託された事業の「目的」と「事業内容」

- ▶ 目的：地域レベルにおけるユネスコスクール教員・児童生徒等間の交流促進、好事例・知見の共有等を目的に、ユネスコスクール地域ブロック大会を中心としたネットワーク構築・発展に資する以下の事業を行う。
- ▶ 事業内容：
 - ① ユネスコスクール地域ブロック大会の開催
 - ▶ ※①北海道・東北、②関東、③中部、④北陸・近畿、⑤中国・四国・九州の各ブロックにおいて年1回の開催
 - ▶ ② その他、地域ブロックにおけるユネスコスクールネットワークの構築・発展に資する重要な事業

(主催・共催) 文部科学省
 大阪(関西)ユネスコスクールネットワーク
 大阪府立大学【受託契約機関】(支援大学)
 中国:中国人民大学附属中学

近畿・北陸地域ASP_{NET}校(小中高校)による 日・韓・中 ESD/SDGs学びあい交流会

- ▶ (調整準備期) 2019年6月10日(月)～2019年8月17日(土)
- ▶ (本番実施期) 2019年8月21日(水)・8月22日(木)
- ▶ (フォローアップ期) 2019年9月20日(金)～2020年1月31日(金)
- ▶ (評価期) 2020年2月3日(月)～28日(金)

他ブロック地域の採択状況



実施機関	事業名称	事業内容(予定)
1 国立大学法人宮城教育大学	北海道・東北ブロックにおける「持続可能な社会の創り手」育成を通じたユネスコスクールネットワークの展開事業	ユネスコスクール北海道・東北ブロック大会 日時: 10月～11月 仙台市(宮城教育大学)
2 公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター	ユネスコスクール関東ブロック大会	ユネスコスクール関東ブロック大会 テーマ: 「SDGs達成に向けた包括的なユネスコスクールと地域の連携」 日時: 10月5日(土) 東京郊外(玉川大学)
3 学校法人中部大学	ユネスコスクール中部ブロック・グッドプラクティスフォーラムの開催とSDGs実践校への訪問研修の実施	ユネスコスクール中部ブロック・グッドプラクティスフォーラム 日時: 11月2日(土) 名古屋市(名古屋駅前)
4 公立大学法人大阪府立大学	近畿・北陸地域ASP _{NET} 校(小中高校)によるESD・SDGs学びあい交流会	近畿・北陸ブロック ユネスコスクールESD・SDGs学びあい交流会 日時: 8月20日(火)～22日(木) (大阪・兵庫)



コーディネーター会議
 会議風景 (4月)
 作業風景 (5月)

小中高校、国公私NPO立、そして
 20代～60代各教員の協働風景







姫路市立鹿が壺グリーンステーション



100名宿泊（1棟4人～10人）



伊沢の里 ホテル20人





古井重次郎 連合自治会長（左から二人目）



岡上正人氏 ふるさとかがし工房

人と人、人と社会、人と自然
持続可能性への知恵と学びにあふれる町の中で・・・

I 期

日時	内容	備考
2019年6月10日（月）	近畿・北陸地域のASPnet校に開催「案内通知」を配布。同時に可能な限り各地域の要望が入るよう企画委員（教員）を募集。各地域に企画委員を置くことで、実施前だけでなく実施後に核となる学校・教員となるように募集する。参加型の企画委員とする。	実施準備期間 ↓
2019年7月10日（水）	参加校の一次締め切り	↓
2019年7月20日（土） ～31日（水）頃	地域ごとの実施に向けた「事前研修」を行う。地域で集まるのが難しい場合は、直接各校と連絡を取り、事前に児童生徒にお願いするアナウンスと、準備していただく内容（PPTなど）について共有する。先の地域ごとの「企画委員」間の連携が開始される。	準備セミナー ↓
2019年8月01日（木）	各参加校から参加者最終名簿提出	↓
2019年8月15日（木）	各参加校の児童生徒からのプレゼンターマ提出	↓
2019年8月17日（土）	各参加校の児童生徒によるプレゼンターマ共有	↓

III期・IV期

2019年08月30日（金）	振り返りと学びの成果集約（各地域企画委員連携）	フォローアップ期間 ↓
2019年09月20日（金）	振り返りの共有と地域ごとの学びの共有（ホームページ開設・契約済み）	↓
2019年10月19日（土）	地域の学校ごとに協働して取り組む内容を提案しあい、企画委員が成果をまとめて提出。（ホームページ上で行う）	↓
2019年11月01日（金） ～2020年1月31日（金）	各地域での取り組み状況を逐次HP上で報告し、参加校が地域の企画委員を通じて相互に各地域学校の取り組みの成果を確認できるようにする。 ※各地域の拠点となる地域企画委員を助けて確認	↓
2020年02月03日（月） ～28日（金）	評価実施期	評価期間 ↓

年間実施計画（予定）

中国（韓国）参加校の準備
セミナー

II 期

2019年08月20日（火）	中国人民大学附属学校（小中高校生）来日（大阪着）	実施期間 ↓
2019年08月21日（水）	「ESD・SDGs 学びあい交流会」1日目開催 「兵庫県姫路市立安富北小学校」および「地域の安富町立施設」～1泊～	
2019年08月22日（木）	「ESD・SDGs 学びあい交流会」2日目開催	↓

何をどのように実施して、何を得るか？

文部科学省からの実施上の要件（実施要領より）

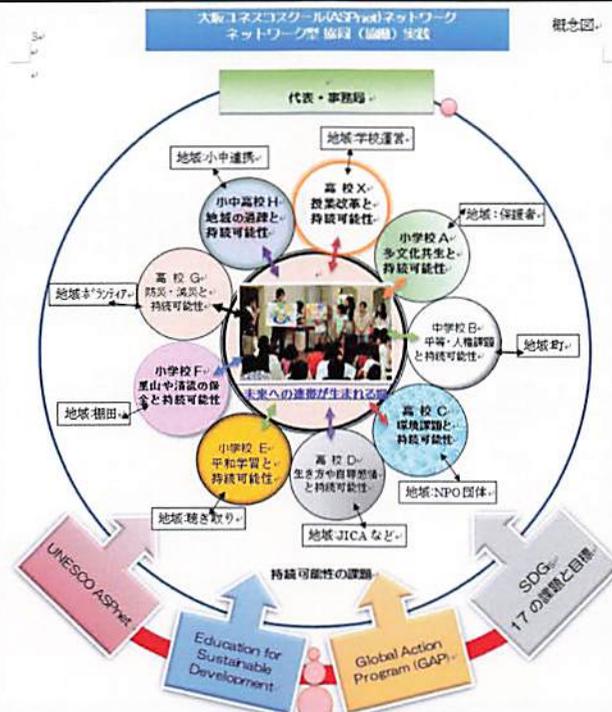
1. ESDの推進
2. 地域ブロック内のユネスコスクール関係者のニーズやユネスコスクールの現状と課題を的確に捉えた上で、学校現場志向の参加型のプログラムになるよう工夫すること。
3. 児童生徒による発表や、児童・生徒間の交流を含む内容とすること。
4. ユネスコが定めるASPnet（ユネスコスクール）の使命、目的、求められる活動等を踏まえたプログラム内容とすること。

<https://unESDoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000261994>

1. ESDの学びとは何か。ESDを通してSDGsを達成するとはどういうことか。
2. ASPnet校が行う実践や、教員・児童生徒の関わり方はどのようなものか。
3. 「学びあう」（networkでの学び）ということとはどのような学びか。
4. UNESCOの理念に基づく教育活動とはどのようなものか。
5. 私たちはどのように教育の国際化（世界が認める国際化）を担うことができるか。

ただ実直に

基本構造



2003 : 3 schools

2008 : 8 schools

2018 : 41 schools

ASPNET 加盟校の核心

- ・ユネスコの精神に基づく活動（人権、平等、平和）
- ・自国の利益のためだけでなく、世界や人類のための教育
- ・当然に「先進国・途上国」、「宗教」、「政治対立」、などに関係なく
→ **学びあう、対等性、多様性（意識的に）※**
- ・世界の多国間連携・協同実践の模範となる

国際的に信頼されるよう大阪（関西）ユネスコスクールネットワークでは、

：受験学力に関係なく・様々な事情を超えた学校の「※」に基づく交流

：競争ではなく、共創による活動

：優位性を誇りあう（競い合う）活動ではない。

：学校間交流は相互交流をする。（訪問ばかり×）

（当初、途上国のASPnet校と交流する場合のルールを指導していただいた：厳守）

月日	8/21(水)	月日	8/22(木)
7:25	北陸チーム高山発(サンダーバード)	6:00	起床
10:39	北陸チーム大阪着、バス乗車後出発(大阪/奈良/和歌山発の3台) (0) 短時間のバス内レク	6:20	朝食
12:30	姫路市立安富北小学校校到着 <昼食 -持参弁当->	7:10	小学生ホテル出発
13:15	開会式：挨拶、 安富北小学校 本鼓? ワークショップの目標共有	7:40	小学生ホテルコテージ前到着
13:30	(1) アイスブレーキング ・仲間づくり	8:00	(4) 生き物探索ワーク 【人と自然】 (姫路市環境政策室他) -多様ないのちからの恩恵・人と自然の支え合い- <調査・探索>：鳥類・水生動物・昆虫・植物・きのこ
14:00	(2) プレゼン交換 <テーマ>：「私たちの地域とESD」 ※ プレゼン：安富北2、北陸2、和歌山2、奈良2大阪2、中国2チーム	9:00	まとめ・講和
15:30	◇プレゼン振り返りワーク (人と人、人と自然、人と社会)	9:15	ワーク終了 コテージ前集合(荷物をまとめて) 出発
16:00	安富北小出発	9:45	安富北小学校に到着
16:15	龍が崎クリーンステーション コテージ到着 (3) かかしワークショップ (地域創生活動 岡上さん) ※ かかしの威力は何? かかしと人との関係は?	10:45	(5) 学んだことポスターセッション ポスター作製 発表・共有
17:30	◇集合：ふりかえり【人と社会】・共有 ◇作業確認と係別会議②	11:45	ポスターセッション終了 解散式 片付け(弁当準備)
17:45	<夕食 -夕食づくり担当教員->	12:00	<昼食 -昼食担当教員-> (6) 教員の学びの整理と地域ネットワーク構築への提案
18:20	小学生宿に出発	12:45	安富北小学校出発
18:40	小学生宿(ホテル伊沢の里)に到着	14:15	大阪着/解散
19:30	本日の振り返りえりワーク 中高生野外・小学生部屋 諸注意(宿の過ごし方と明日の予定)		
21:00	小学生就寝		
22:00	中高生就寝		



近畿・北陸ブロック ASPnet 校(小中高)による 日中 ESD/SDGs 学びあい交流会&臨場研修会

実施:大阪・関西 ASPnet、大阪府立大学(受託)、中国人民大学附属中等学校、 協力:金沢大学、京都外国語大学、奈良教育大学

参加校

海外 中国人民大学附属小学校、中学・高校、**富山県**富山国際大学附属高校、**兵庫県**姫路市立安富北小学校、神戸市立大沢中学校(セミナーのみ)、兵庫県立川西明峰高校、神戸大学附属中等教育学校、**京都府**京田辺シュタイナー学校、**奈良県**奈良教育大学附属中学校、奈良育英中・高校、奈良県立法隆寺国際高校、**和歌山県**和歌山県立橋本高校(セミナーのみ)、**大阪府**アサンプション国際小学校、大阪市立清明が丘小学校、帝塚山学院中・高校、大阪府立富田林中・高校、大阪成蹊女子高校、大阪府立北淀高校、大阪府立住吉高校、大阪府立松原高校、大阪府立佐野高校(セミナーのみ)、大阪府立長野高校、大阪府立豊中高校能勢分校、大阪教育大学附属高校池田校舎(23校)
<実施協力> 姫路市教育委員会、姫路市環境局環境政策室、安富町関自治会、ふるさとかかし工房、環境調査員皆様

I ASPnet 準備セミナー

近畿・北陸ブロック ASPnet の学びあいを目指して

第1回準備セミナー 7/14

主な内容(3時間 15分)

- ・多様な学びの集団作り
- ・ASPnet、ESDって何?
- ・ユネスコの考え方
- ・共感的理解の大切さ
- 「学校プレゼン/自分の学校再発見」

第2回準備セミナー 7/21

主な内容(3時間 15分)

- ・前回の振り返り/ESDの考え方
- ・地域の持続可能性を考える
- 「奥播磨かかしの里再生への取り組みから」
- 「身近な地域の課題を共有する」

第3回準備セミナー 8/18

主な内容(6時間 30分)

- ・身近な地域の課題仲間分け
- ・地域の課題概念的な理解へ
- ・地域の課題総合的な理解へ
- ・ESD ダンスと劇で表現する
- 「課題の解決につながる身近な視点」

II 学びあい交流会 in 姫路(安富北小) | 泊2日

内容概略(8月21日・22日)

近畿・北陸地域のユネスコスクールと中国のユネスコスクールの小・中学生・高校生が集まり、「1泊2日」の日程で、「持続可能な未来や社会の創造に何が 필요한のか」を探究するワークショップを行いました。

ワークショップは以下のようなプログラム構成です。

- ① 身近な地域や学校の持続可能性を阻害する要因、促進する要因を考えてまとめた7分間のプレゼン発表。
- ② 人と自然の支え合いを考えるために、動植物の生態を観察し、野山を散策するワーク
- ③ 人と人、人と社会が支え合う地域の取り組みを学び、地域の持続性を考えるワーク(奥播磨かかしの里にて)



III フォローアップセミナー 11月4日

ASPnet のつながり、深化を目指して

フォローアップセミナーの流れ

私たちは何を学んだのかを振り返る

ESD/SDGs達成に向けて私たちに ①どのような考え、態度、行動が必要か。 ②どのようにネットワーク活動を発展させるか、を考える

「私たちの宣言文」原案作成
近畿・北陸各地域参加 ASPnet 校



写真記録

- ・教員会議・準備の様子
- ・第1回～第3回準備セミナー
- ・ESD 学びあい交流会 (8月)
- ・フォローアップセミナー(11月)
- ・安富町・安富北小の紹介。

学びあうことを学びあう！！

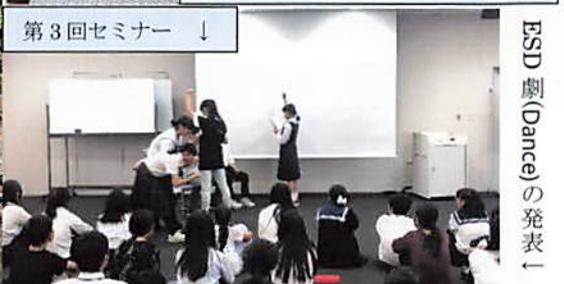
第1回セミナー様子 (開会式)



第2回セミナー YouTube 配信 ↑



8月13日 生き物探索風景



ESD 劇(Dance)の発表 ↓



ESDの風景



地域に迎えられて。安富北小



自然に迎えられて



かかしとの語らいがある風景



かかし住人から大歓迎



地元の小学生と保護者に迎えられて



↑小中高校生 教員が発表を聞いている



↑中国・奈良・富山・大阪の中高校生発表



8月21日 ESDプレゼン(中国)



(上) 11月4日 フォローアップセミナー (右) 宣言文起草/富山・奈良・中国からも案を聴取して作成された。

異なる地域・国、異なる学校種、異学年による多校間ネットワークによる

『学びあい 成果』

【 成果確認の問い 】

- ① 2日間を通して一番良かったことや、学んだこと、また「大切にしたい」と思った事は何ですか？
- ② あなた自身が「成長した!」「変わった!」と思ったことを下から選んでください。(複数可)
 1. 知識的なこと、 2. 考え方、価値、 3. 自分の振る舞い、行動、態度、
 4. 自分の可能性、 5. 自分と社会の関係(つながり)を見る力、
 6. 自分と自然の関係を見る力、 7. 自分の他人へのかかわり方、 8. その他
- ③ ②のあなたの選択の中から家族や友人、先生に伝えるとしたらどのようなことを伝えますか？
- ④ 今後「こんな交流や学びあいをしたらよいと思う!」という提案や要望を書いてください。

【 問いの意図 】

上記「問い」は、(下記に示した)本プログラムの目的の達成を量るだけでなく、今後の「近畿・北陸ブロック」のネットワーク型「学びあい」を推進していくために、教員が最も知りたい児童生徒のESDを通じた学びの内容や、確かな成長の姿を抽出することを意図して作成された。このため、今後のプログラムでは、プログラムの実施そのものを目的化するのではない。むしろ、プログラムを通じて得ることができた具体的な学びや獲得された希望および活動が、単に「楽しかった」で終わることなく、僅かでも自らが持続可能社会の形成と共に成長し続けることができるような「基点」となるよう本プログラムが企画された。彼ら(彼女ら)の成長は、やがて確実にESDの担い手やESDリーダーとしての影響力を発揮するものと考えられ、現に(この報告書をまとめている時点で)各校からは参加生徒の学級や学校での活躍が報告されていたり、大きな変容を伴って過ごしていたりすることが報告されている。そのようなプログラムを今後さらに発展させる開発資源として、今後の記述式の振り返りは貴重なものとなる。

(目的) 1) 日ごろのESDの地道な学びを地域や国を超えて交換し、そこから見える共通の課題を共有します。そして、小さくとも確かな課題解決のための協働を計画し、持続可能社会への希望を日常化する学習を行います。2) 同時に、各地域に「学びあい」の拠点をうちたてることを目指し、学校の枠を超えた学びの創造について生徒や先生方と知恵を出しあいながらESDやSDGsを担える学びの学校連携への第一歩を構築します。

【 上記、①,②,③,の児童生徒の記載を下記に抜粋 】

- ① 2日間を通して一番良かったことや、学んだこと、また「大切にしたい」と思った事は何ですか？
 - ・今回訪れた地域では、その地域での状況からそこだけの特色を活かしてESDやSDGsについて取り組んでいたことから、達成のためにはたくさんの方があるということを実感しました。／唯一、北陸から来た学校だったので近畿の方々と多く関わることができました。また、安富北小の子たちが発表していた活動は自分たちの地域でするのは難しいので、自分の地域の特色を活かしていてすごいと思いました。(富山国際)
 - ・私が日中小中高ESD/SDGsの交流会に参加して学んだことは、英語を話すことができるとコミュニケー

ションがすごくとりやすいということと、他の学校の特徴や他の国の文化についてです。大切にしたいと思ったことは人との関わりかたです。(川西明峰)

- ・友達とのコミュニケーションやプレゼンでESDのかつよう方法／・〈よかった〉みんなともっと関わりあえたことです！〈大切〉分かち合い・たすけ合い。(アサンプション国際小)
- ・2日間を通して私は、中国人との交流が一番よかったと思います。国籍は違えども通じ合うことができると実感しました。私は国と国の関係を大切にしたいと思っています。／自分が思っていることを言うのも大切だけど、人の意見をきいて考えを増やして広げることを大切にしたいと思った。(府立松原)
- ・SDGsの17の項目を解決(改善に向ける)するためには、人々のつながりが重要ということ。たとえ、小規模な取り組みでも、過疎化回避などに影響させる力があること。地域によって様々な問題や解決策があるが、ESDに対する考えは同じであること。通訳のお兄さん、お姉さんの姿がとてまかつこよくて、あこがれの存在となつてとてまよかった。(神戸大学附属中学)
- ・小学校のころから人から声をかけてもらうのを待ち、その限られた人間関係の中で狭く深い友情を築くことだけがいいと思っていた。もちろんそれで喧嘩もない明るい生活ではあったのだが、この2日間は私のモットーをくつがえすものとなつた。「自分何年生なん？」と声をかけられ「うげっ」と思った。二人称で自分呼びは大阪の中の大阪人だ。今まで出会つたことのない人だったので恐ろしかった。そして高校入学から経験したことをいろいろ話すと、「じぶん、めっちゃくちゃおもしろいやんけ」と言われ、なんだか心が温まつた。良い出会いにめぐり合えた時、とても価値のあるものになるのだなと思った。なぜなら今回の合宿で、大阪の人々をコンプリートした気分になつたほど豊かになれたから。(大教大附属池田)
- ・中国の友達に文化を教えてもらい、よい経験になりました。他国の人と関わることで視野も広がりました。また、森を見ることによって、水循環を感じ、自然の尊い姿を知りました。(府立長野)
- ・初めは全く知らない人とコテージの班になることがとても不安で、話せなかつたらどうしようと思つていましたが、班の子たちがみんな話題を振つてくれたり、明るく振舞つてくれたおかげで、一日でとても仲良くなれて、最後には別れるのがつらく感じたことです。この出会いが一番良かったです。(帝塚山学院)
- ・たくさんいろいろな人と交流できたこと、友達ができたこと。いろいろな地域や考え方の人たちと関わりあえたこと。2日間で一番うれしかったことは、新しくできた友達の挑戦に手助けできたことです。その友達は英語を話すことにあまり自信を持っていなくて、中国の友達と話するときも、常に私が翻訳して話していました。しかし、私がしていることはその友達のためにもならないと考え、友達に自分なりの英語で話してみるように促しました。すると、友達と中国の友達との間に隔たりもなくなり、お互い気兼ねなく話しているように感じ、私もその光景を見られて、私の選択は正しかったと思いました。中国人民大学附属中学校の学生をはじめとする、いろいろな地域の学生と関わる機会を持てたことを大切にしたいです。これほど幅広い年代のかたがたと関わることは少ないので、礼儀や話し方、関わり方を学ぶ上でとても役立ちました。(奈良育英)
- ・富山や和歌山の人たち、そして中国の人たちと友だちになる事が出来て、とても良かった。初めて会う人たちとも話すことが出来て良かった。このような交流の場を大切にしたい。／ファミリー以外の人と泊まつた事がとても良かった。また、プラスチックゴミを減らすことを大切にしたいと思った。(京田辺シュタイナー)

- ・色んな地域の学校で行われている環境に対しての活動を知れたこと。／一番よかったこと…日中小中高いろんな人とコミュニケーションをとったこと。まなんだこと…自分の住んでいる地域について考え、行動にすることでESDやSDGsにつながる。大切にしたいこと…この2日間の体験やアクティビティ。／周りを見て出来ることをそっ先してすること。／岡上さんのように実際に行動することが大切だと思った。(富田林中学)
- ・少人数の町で育ちまわりが知っている子たちばかりの学校で育ってきたので、知らない人たちに囲まれ、自分から声をかけコミュニケーションをとるということを2日間でたくさんして、話しかける勇気を持つことがこれからの人生で大切にしたいと思えたことです。／自分だけの価値観だけでなく他の意見を取り入れることによって、自分には見えていなかった欠点を見つけ出すことの大切さ。(豊中高校能勢分校)
- ・二日目、先生の指導で山にきのご観察のワークが素晴らしかったです。また、高齢化社会のプレゼンを聞いたり、かかしの里を訪問したりして、日本の高齢化社会についてもっと深い認識が得られました。ワークショップの最後に、各ファミリーがポスターを作成して、二日間の学びを振り返ること、皆で話し合うことはたいへん有意義だと思います。(中国人代付中(小学生))
- ・大切にしたいことは、自分から相手に話しかけることです。(神大附属中)
- ・人と人との関わり。自然とのつながり。文化の理解。→大切にしたい 言語が違っても会話ができた。(川西明峰)
- ・県や地域・国を超え様々な考え方の中でふれあい学び合えたことが一番よかったことです。(富山国際)

② あなた自身が「成長した!」「変わった!」と思ったことを下から選んでください。

回収 60名 + 安富北小 35名の振り返り作文より

1. 知識的なこと、
2. 考え方、価値、
3. 自分の振る舞い、行動、態度、
4. 自分の可能性、
5. 自分と社会の関係(つながり)を見る力、
6. 自分と自然の関係を見る力、
7. 自分の他人へのかかわり方、
8. その他 (複数可)

【結果】 1. 「知識的なこと」	42人 (69%)
2. 「考え方、価値」	54人 (89%)
3. 「自分の振る舞い、行動、態度」	53人 (87%)
4. 「自分の可能性」	20人 (33%)
5. 「自分と社会の関係(つながり)を見る力」	35人 (59%)
6. 「自分と自然の関係(つながり)を見る力」	30人 (50%)
7. 「自分の他人へのかかわり方」	48人 (81%)
8. 「その他」	3人 (5%)

※1)当初10月初めに実施予定だったフォローアップセミナーが台風のため中止となり、11月4日に延期された。このため、多くの学校が他の行事と重なったためフォローアップセミナーへの参加者は60余名+安富北小24名(合計85名)であった。以上の理由により「最終アンケート」の回収枚数は全体の64%ほどである。

※2)安富北小はアンケート用紙の形式ではなく「振り返り作文」を全生徒から集められた。このデータは番号の選択形式とは異なるため、上記人数(%)には含めていない

③ ②の選択の中から家族や友人、先生に伝えるとしたらどのようなことを伝えますか？

選択肢 1. 「知識的なこと」を選択した児童生徒の回答(抜粋)

- ・ぼくが夏休みの2日間で学んだことはじぶんのすんでいるちいきにいろんな生き物がいるということです。はじめてあった中学生こうこうせいの方たちといっしょに山の中で虫をさがしながらどんだなかよくなりました。生き物がくらせるしぜんをたいせつにして、まもることと知らない人たちとおなじ目的をもつことで仲良くなれるとゆうことがわかりました。(安富北小)
- ・ひさしぶりに自然のすがた？を見たのでじっくりみました。友達や先生の気持ちなど考えながらいろんなことを学びました。(アサンプション国際小)
- ・かかしの里は高齢化が進んでいる代表的な過疎地域で、自分はその現状を実際に見てたくさんのことを感じれました。人が少ないという問題をかかしを使って解決していたのに驚きました。(富山国際)
- ・中国では英語で授業を受けることがあること。ぜひ取り組みたいと思う。中国では簡単な日本語も使われていること。安富町は兄弟の人数がそれぞれ多いこと(ニンテンドーswitchのジョイコンを8つ持っていると聞いた)。安富町にはカラスが少ないこと。住んでいる地域で暮らしは様々で、大阪や奈良の友達は海に3年に一度しか入らないこと。(神大附属中)
- ・自分は人が多い所に住んでおり、近年子どもの人口が増えています。しかし、安富北小の辺りでは人口が減っていたり、小学校へ通う子どもの数も私の所とは違い、人口、地域格差を感じた。それぞれの問題を伝えたい。(大阪成蹊)
- ・2日間の間で知識的なことでたくさんのことを学べたということを伝えたいです。姫路の奥播磨かかしの里へ行き、村の雰囲気などは能勢町と似ていて帰ってきたような気持ちになりましたが、たくさんのかかしがいてかかしのおかげで観光客が増えたということを知り、能勢町ももっとアピールするところがある、それを作ればいいのではないかと思うことができました。(豊中高校能勢)
- ・1番の「知識的なこと」です。この二日間、大自然と接して、人と自然との関係を考え直しました。多くの友達と一緒に話して、日常の暮らしと学校生活が分かりました。これはただの観光客なら絶対得られないものです。自分の家族に伝えたいことはかかしの里での風景、親と高齢化社会の問題を一緒に討論したいです。また中国の友達に日本の小中高の学校風景、学校生活の相違点などを教えたいです。(中国人代付中)
- ・中国の学校の教育や文化、芸術などを中国の「シーちゃん」に写真を見せてもらいながら教えてもらいました。日本と全然違う文化もあれば、似ている文化もあり、自分の視野が広がり、世界とのつながりを実感しました。(府立長野)
- ・「かかしの里」という形で、積極的に取り組んでいる事例があることとその内容について。(京田辺)
- ・自分の考えだけでなく他人の考えも「知りたい」、と想うようになった。(府立北淀・淀川清流)
- ・国内、国外さまざまな人と関わることができた。ESD、SDGsについて考えるいい経験になった。基本中国人と英語で話したが、自分の英語力の力だめしになれた。英語がとても重要だととても思うことになった。(富山国際)

選択肢 2. 「考え方、価値」を選択した児童生徒の回答(抜粋)

- ・ユネスコワークショップを通して考えてみれば夕食で食べたカレーがおいしかったことはさておき、

35人の学校が約150人また同じ世代の人もたくさんいました。さらに目の色髪の色は同じけどしゃべる言葉がちがう、文化がちがうさまざまな人たちとふれあうことができ自分に足りないものがあったと思います。1つ、あいさつをする。2つ、自分からコミュニケーションをとる。3つ自然や文化を大切にすることを学びました。(安富北小)

- ・2日目の振り返り(ポスター作成)で学んだ事は協力だと思います。理由はポスターを作るときにどんなことを書くか発表するかで協力して作るからです。高校生の文章と同じで私も自分の得になることしか考えていないことに気づきました。だから私はあいてのことを考えて行動すればいいと思いました。そして、自分からあいさつをしてコミュニケーションをとって地しんや災がいのときは助け合おうと思いました。(安富北小)
- ・自然と人間は関わり合って生きていること。(富田林中学)
- ・自分の1つ1つの行動が、地域や日本、世界を変えることができる。それは、悪い方向にだって良い方向にだって進むことができる。「みんながやってるから…」「だれもやっていないし…」ではなく、自ら進んで行動に移すことが大切。(富田林中学)
- ・だめなことはだめと、自分たちで言えるように変えられるように行動することが大事。(府立松原)
- ・私達もESDについて考え、向き合っていくことが大切だと思った。中国からのゲストともふれ合い、言語のかべをこえてコミュニケーションをとろうとした点がよかった。(神大附属中)
- ・住んでいる地域によっておおまかな性格が違っているから面白く楽しい。しかし、楽しいだけでなく会話の中で相手がふと話したことが自分と考え方や価値観が違って別の視点で物事を考えることができた。(大阪成蹊)
- ・多くの地域が集まって話すことでその地域ごとに特色や問題があり、価値観にも違いがあることが分かった。(富山国際)
- ・自分で考え、次に何をするか整理つけて行動すること。何か1つ課題があるとして、自分が賛成の意見を持つのなら、逆に反対の意見もすぐ考えるようになりました。(府立長野)
- ・普段小学生と共に生活する、大自然と関わるというような体験はあまりできないので、とても勉強になりました。また、私高校生と小学生との価値観が異なる所もあるので、互いに良い意見交換ができて良かったです。(府立長野)
- ・一番良かったことは中国や国内の他校から来た様々な人と交流できたことです。なかなか他校の人とは交流する機会がなく、お互いの学校事情などで盛り上がりました。また中国人の生徒、通約さんと可能な限り中国語で話したことで語学の能力も向上しただけでなく、中国の学校や流行などについて知ることもできました。「大切にしたい」と思ったことは、自分についても積極的に発信していくことです。自分から発信することで相手も話してくれて話題が尽きなかったからです。(大教大附属)
- ・年齢も住む場所も、学校もちがう人たちと一緒に活動をしたこと。人と人とのつながり、コミュニケーション。自分の住んでいるところでは味わえない人や環境と触れ合うことの重要性。(帝塚山学院)
- ・同じものを見たり聞いたりしても1人1人違う考え方をされていて、自分が考えたことのない方向から考えたり、みれたりできた。(大阪成蹊)
- ・私は日本と外国の違いに興味があり、外国に目を向けがちですが、今回、近畿の方と関わり、近畿の方の良さを知ることができました。私も、近畿の方の良さに近づけるようにしたいです。(富山国際)
- ・自然のサイクル。国や地域がどうしても人と人とはつながれる。(神大附属中)

・「便利」の反対は必ずしも「不便」ではない、ということ。美しい自然を守っていくべきだ、ということ。(神大附属中)

選択肢 3. 「自分の振る舞い、行動、態度」を選択した児童生徒の回答(抜粋)

- ・前よりもっと回りに気をつけて行動できるようになった。知らない人でもあいさつをするようになった。「ありがとう」をたくさん言うようになった。人はそれぞれいろいろな考え方があって、どんな考えにも間違いはないということ。持続可能な地球にするための行動。セミナーや、たくさんの人のかかわりの中で、いろいろな分野の知識を取り入れることができました。そんな自分と価値観が違う人と交流し、意見を出し合い、自分は本当に正しいか頼を持っているのか、人に流されていないか、と自問自答していました。先生方や地域の方や、国際的な先生との関わり方を見て、先生方が礼儀正しい行動を起こしてくださっているからこそ、私たちも自然と正しい行動を起こせるのだと思いました。今まではできないと思っていたことがたくさんありましたが、オツキーズをして自分から話しかけようとするなど、積極的にコミュニケーションをとることができ、自分の中の他者との隔たりをひとつなくすることができたのではないかと思います。また、セミナー中、自分と周りとのかかわりについて考えることが多く、今まで人任せにしていた地域の問題も考えるようになり、日ごろから周りを注意してみたりするようになりました。(奈良育英)
- ・自分が今まで詳しく分かってなかったことや、中国人や小学校とともに交流した時の話。少しでもバリアフリーになる行動がしたいと思った。(府立松原)
- ・自分がと前に出て発言したり意見を言うことも大切だけど、発言だけじゃなくて人の意見を聞いてそれについても考え、学び合うことが一番大切。そのためにグループ活動がある。(府立松原)
- ・年上の人に対しての言葉・態度が良くなった(?)前と比べて(富田林中)
- ・私は、自分から中学生高校生と友達になりチームワークがふかまったと思います。1日目だけで仲良くなりました。どんな高校か中学校かがプレゼンを見てよくわかりました。社会の勉強にもなり、かかしと写真をとったりもして2日間みんなと楽しめてよかったです。もう一枚の紙に書いてあった①～④は、みんなできており2020年も小中高生のESD学びあいをして、また同じ人と会って楽しみたいです。私たちの地いきを守ったりして大阪方面の人にも「自分の地いきは自分たちで守る」ということはできると思います。昔から今へつながる千年家など、そういう所に行って伝えられたらいいなと思いました。そして、安富ダムがあるとことによりこの地いきが守られていると思います。さい近は大雨や大きな台風がくるといったような自然さいがいが多くなっている所以我们が何をしたいか次のESDで考えられたらいいなと思いました。(安富北小)
- ・夏休みに「学びあい交流会」に行きました。1日目は学校でチームにわかれしました。私のチームハ「ツシマヤマネコ」っていうチームでした。チームにわかれてかかしといつしよにしゃしんをとったりしました。しゃしんをとったのを見てきれいにとれているなと思いました。私はこの交流会でコミュニケーションの大切さやたすけあうことのじゅうようさをまなびました。(安富北小低学年)
- ・今までのセミナーでも多くの人と交流することが出来ましたが、今回の合宿では、より一層、学校・年齢・国の垣根を越えて、深くお互いを知り合うことが出来たと思います。(京田辺シュタイナー)
- ・「次世代のために」ということはずっと考えていたことだけれど、もっと深く考えて次は行動に移したいと思った。(奈良教育大学附属中)

- ・自分の考えをはずかしがらずに発言する力。(奈良教育大学附属中)
- ・もっと自分の通っている学校を良くしていきたいと思ったこと。(奈良育英)
- ・できるだけ周りの中高生に役立てるように、机・椅子を動かす、紙に書くなどのことを手伝いました。
(アサンプション国際小)
- ・いいたいこと、発表したいときは手を挙げる。(アサンプション国際小)
- ・ここでであった人との繋がりはこれからも大事にしていきたいです。(府立北淀・淀川清流)
- ・仲の良い人がいないところで合宿をするというのは初めての経験をして、自分から人に話しかけることができるようになったこと。(帝塚山学院)
- ・初めて会う人でも、話してみたりしたら、思ってるよりすぐ仲良くなれるから、コミュニケーションが大切だと思います。(府立豊中高校能勢分校)

選択肢 4. 「自分の可能性」を選択した児童生徒の回答(抜粋)

- ・話し合いのコツが分かったので、それを活かしてこれからの話し合いに挑みたいと思いました。(奈良教育大学附属中)
- ・成長しようと思ったら、成長できる。(神大附属中)
- ・班の子たちがみんな話題を振ってくれたり、明るく振舞ってくれたおかげで、一日でとても仲良くなれて、最後には別れるのがつらく感じた。この出会いが一番良かったです。この経験を通して、私も班の子たちのような振る舞いをできるようになりたいと思いました。(帝塚山学院)
- ・国の違いなど関係なく、お互いが幸せに交流する方法は沢山あるんだなと思った。(府立長野)
- ・ファミリーで地域の気づいたところ出しあったけど、課題しかでなかったからいいところを見つけられる人になりたいと思う。(神大附属中)
- ・自分が案を出すだけでなく他の人(特に年下の人)が意見を出しやすい雰囲気をつくる。(豊中高校能勢分校)
- ・初めてこんなに違う言語の人と会話して、文法がまちがえていたり発音も良くなかったりしたかもだけどちゃんと会話が成り立ったということ。「もっと話せるようになるかも!」と思った。多文化社会の今、他の国の文化をもっと知ろうとすべきだと感じる事ができた。(川西明峰)
- ・将来のことを考える。すぐ先の未来のこと。(府立北淀・淀川清流)
- ・近畿の人たちの人がら。安富北小学校の子どもたち。安富のまちのかかし。自然。中国の人たちの国民性。英語がいかに普遍的な言語であるか。(富山国際)
- ・自分たちが積極的に行動すれば、解決できることがあるということを伝えたい。(府立松原)
- ・私はどちらかというと積極的な感じではないが、今回の学びあい、いろんな人と触れ合い、少し積極性が出てきたかな、と感じるようになったこと。大阪と違って、とても自然豊かなところに行って、いろいろな経験ができたことなどを伝えたい。(帝塚山学院)
- ・ESDの復習(晴明丘小)
- ・身の周りにもESDの考えが使われていることがあるから自ら探していきたい。(アサンプション国際小)
- ・小学生や中国の方、コテージのメンバーなど新しく出会った人たちと話せるように行動できてよかった。自分になかった考えをしっかりと聞いて、お互いをよく知ることを大切にしたい。(神大附属中)
- ・友達とのコミュニケーションやプレゼンでESDのかつよう方法(川西明峰)

選択肢 5.「自分と社会の関係(つながり)を見る力」を選択した児童生徒の回答(抜粋)

- ・かかしの里は高齢化が進んでいる代表的な過疎地域で、自分はその現状を実際に見てたくさんのごことを感じました。人が少ないという問題をかかしを使って解決していたのに驚きました。(富山国際)
- ・奥播磨では、地域の人たちが協力し町を豊かにしていき、安富北小学校ではホテルの飼育をみんなでして、どちらも協力し成功させているので、協力することは大切だということを伝えたいです。(神大附属中)
- ・人がいなくて寂しい町でも地元の人々の考え(アイデア)一つで生まれ変わるんだということを伝えたい。(大教大附属池田)
- ・町おこしに最適だと衝撃を受けた安富町の「かかし」のことを、現代社会のレポートを通して担当の先生に伝えた。かかしを思いついたことはすごいと思った。人がたくさんいたら活気があふれる「人間は人間が好きなんだ」ということを伝えたい。(大教大附属池田)
- ・自分の行動で周りの人たちと仲良くなれたり、新しいことを学べたりすること。(帝塚山学院)
- ・5番の「自分と社会の関係を見る力」です。特に富山国際学校のプレゼンから日本の高校生が社会の課題について鋭い観察と真剣な考えが印象的でした。社会の現状に目を届いて探究して自分なりの見解を見つけることによって日本の若者の社会責任感を感じています。例えば都市計画と農村部人口流出などの課題が挙げられます。実は中国にも同じような課題はたくさんあるんじゃないですか。我々は日本から経験と解決方法を勉強しなければなりません。(中国人代付中高校生)
- ・自分の周りは施設などがそろって住みやすいが、田舎のほうへ行くと不便で高齢者の方しか住んでいない ことについて、対策を取るべきだということ。(帝塚山学院)
- ・いつもはあまり地域のことを考える機会がなかったけど今回はそれを考えられて良かった。(富田林中)
- ・それぞれの都道府県からたくさんの方がきていたので、その人たちと友だちになれたことと、その人たちとの話で、同じ日本なのに地方が違うだけで多くの事に違いがあったことです。(豊中高校能勢分校)
- ・寂しい雰囲気だった村を人にそっくりなかかしでにぎわって笑顔あふれる村にかえたこと。→岡上さんの行動力がすごいと思ったから。(アサンプション国際小)
- ・過疎化してもあきらめず、色々なアイデアだして村人も訪れる人も楽しめることができるとすごいと思った。(奈良育英)
- ・10分後、そして未来について考えること。課題だけじゃなくていいところもを見つけること。(神大附属)
- ・ぼくは、21日22日のユネスコワ・クショップでかかしを置くことで元気になっているということを知りました。ぼくは、いつもなにげなく見ているかかしがこんなすごいことをしているんだと思いました。ぼくは、このユネスコワ・クショップを通して地域との関わりを大切にしていこうと思いました。(安富北小)
- ・一番印象的なことはかかしの里を訪問することです。ここで見たかかしは自分が知っている「かかし」とはだいぶ違います。かかしは鳥などを退治するだけではなく、村の人々を伴って地域の民俗特色となれるでしょう。(中国人代付小小学生)
- ・地方の人口減少や少子高齢化の現実と向き合い、地域活性化の大切さを感じた。また、多くの人に興味を持ってもらえるように、楽しく地域活性化を行うことが大切だと思った。(大阪教育大学附属)
- ・人と人とのつながり、人と地域のつながりを持って社会をつくること。(神大附属中)
- ・日本での多くの小中高がESDの実践を重視することが分かりました。中国にもESDの学習をもっと

広げて、これは一人の地球市民としての責任であると思います。(中国人民大学附属 高校生)

選択肢 6.「自分と自然の関係(つながり)を見る力」を選択した児童生徒の回答(抜粋)

- ・かかしの里での二日間、大自然に置かれて身近に接することができました。以前は「自然」と付き合っている場合は、観光名所なので観光客ばかりでした。今回は気を静めて、川と山と森と鳥などを観察できてたいへん素晴らしいと思います。また日本人の友達と一緒にコテージに泊まってカレーと味噌汁を食べて非常に貴重な体験でした。(中国人大付中高校生)
- ・ESDプレゼン発表では、みんなプレゼンでは自分の学校のことを発表して、みんなもプレゼンでがんばっていたので良かった。生き物探索ワークでは、きのこ、川、生き物と分かれて、私は生き物を探しに行きました。たきまで上がるとちゅう、いろいろな生き物を見ました。生き物の名前を教えて下さる先生が夜にしかけをしておいた物をもってきてくださって、しかけやひょう本の仕方を教えて下さって勉強になりました。たきの所まで行って生き物を探しました。みんないろいろな生き物を探していました。私はこの活動で学んだ事は生き物は大事ということです。(安富北小)
- ・プレゼン発表では、それぞれのデメリットをこうしたらよいと思う発表をしていたし、そのデメリットをメリットの力で良いことにしたらいいんじゃないかという意見がありました。かかしワークショップでは「いつものかかし」と思っていました。岡上さんの話でかかしはこのような思いで作られているのかと思い、かかしはあるのかと思いました。行きも探索ワークでは関にあった葉などがあって、これからはここにはこんな葉があるなど見ていきたいと思いました。振り返りでは班で書いたり発表したりしたので最後の最後までコミュニケーションがとれました。この活動で学んだ事は人とコミュニケーションをとったり地いきの自然に親しもうと思いました。(安富北小)
- ・今まで知らなかった人とも仲良くなれてうれしかったこと。川へ行ったりして自然と(直接)関わることの大切さを知れたこと。(府立長野)
- ・自然観察のワークで、きのこの分類などたくさん勉強になりました。山での空気が素晴らしい。青空と森が忘れられないです。(中国人代付中中学生)

選択肢 7.「自分の他人へのかかわり方」を選択した児童生徒の回答(抜粋)

- ・7番の「自分の他の人へのかかわり方」です。言葉が通じなくてもプレゼントの交換、翻訳のソフト、日常の話題などを通じて互いの隔たりを解消することができます。話し合いでお互いの内容と意味を理解することができるでしょう。(中国人代付小 小学生)
- ・初めて会う人ともコミュニケーションを積極的に自分からとることが大切だと思った。考え方も、深くやわらかく考えたほうが良いと思った。(帝塚山学院)
- ・周りの人と交流することによって、自分自身の他の人への関わり方が変わるという事。さらに、他の人と関ることによって、コミュニケーションが増えるということ。(京田辺シュタイナー)
- ・何事にも積極的に関わることの大切さ。(京田辺シュタイナー)
- ・違う学校、学年、国の人と仲良くなるにはどうすればいいのか。(富田林中学)
- ・コテージでいた時に、言葉が通じなくても日本の友達がみんな暖かい気持ちでゆっくり話してくれました。私たちが翻訳のソフトなどを使ってたくさん話して、お互いの連絡先も交換しました。ポスター発表の時に、私も作成に参加して中国語での漢字をみんなに教えたりして、最後スピーチもしました。

(中国人代付中高校生)

- ・人との関わり。身近なところに目を向ける。(晴明丘小)
- ・みんなの気持ちを考えながら笑顔でしゃべる。(アサンプション国際小)
- ・一日目、日本小中高のプレゼンを聞いてたいへん勉強になりました。例えば内容とプレゼンの方法が印象的で、身近な課題を探求する学びとか、丁寧に聞き手の立場を考慮してスピーチの方法とか、たくさんあります。(中国人代付小小学生)
- ・泊まる時、ファミリーじゃない人と寝るって知った時、正直そんなすぐに打ち解けられるか不安だったけど、同じ部屋の子が場を和ませてくれて、それにのっかった部分もあるけど私もいっぱい話しかけられました。同じ年で、すぐみんなに話しかけたりする姿にただただすごい！と思いました。(豊中高校 能勢分校)
- ・今まで話したことの無い子と話せたこと。人どうしや地域とつながること。いろんな人のつながり。(大阪成蹊女子)
- ・国どうしの関係が悪くても人と人との関係は変わらないんだと実感した。(大阪教育大学附属)
- ・普段ふれることができない自然や、きっかけがないと関われない違う国や違う学校の人たちと一緒にいろんなものを見たり、いろいろ話せてよかった。(府立松原)
- ・人とのつながり大切にしたいと思いました。高校生だけでなく、小学生や中学生ともたくさん関わることができとてもうれしかったです！(府立長野)

選択肢 8.「その他」を選択した児童生徒の回答(抜粋)

- ・人見知りの私でも、初対面の人と話し合っ、仲良くなることができた。普段なら触れ合えない人や生き物、環境に触れ合っ、普段考えないことを考えた。(帝塚山学院)
- ・最初に、コテージで日本のみなさんと一緒にいた時、ちょっと不安と緊張してました。何をしゃべるかよく分からないけど、自分が持っているお土産を通して、ゲームをしたりしてやっとなんか親しくなりました。(中国人代付中 中学生)

まとめ

ESD・SDGs は児童生徒自らの向上心や成長と共に、その知と精神が学びとして備わっていく必要がある。本来、ESD は大人が学校で備えさせる「能力」というような評価を前提とした扱いではなく、自らが生きていく上で抱く希望や自分への期待を持つことができる幸福追求の一環として捉えられなければ主体的な持続可能社会の創造の当事者とはなり得ない。このように考える時、自分と他者との関係性や、自らが社会の公正な一員でなければならないことその他、逆に他者や社会での自らの役割などの意識化が幸福追求(成長意欲)の一端に備えられるべきことに気づかされる。まさに ESD リーダーとしての役割は、人と人、人と社会、人と自然との関係において上記の通り自らを問い続ける姿と、多様・多元的価値と諸相が混在する中であってそれらが配慮しあう姿を自らが描くところに真価があるのではないだろうか。今回のアンケート(準備セミナーの振り返り含む)からは、自分が人や社会・自然と関わろうとする意欲や自信(力)、社会や自然を見る力、持続可能なあり方を意識した言葉・振る舞いや自らへの期待などの確かな内心の変化を読み取ることができた。私たちは、改めて持続可能社会の発展が、一人ひとりの成長意欲や希望が育つことと同期していることを理解する必要がある。

「2019年度 近畿北陸ブロック ASPnet 小中高生 ESD、SDGs宣言」

2019年11月4日

2019年度、近畿北陸地域のASPnetでは、大阪府、奈良県、京都府、兵庫県、和歌山県、富山県、中国の22校、約120名の小中高生が集まり、準備セミナーと1泊2日の姫路での学び合い、フォローアップセミナーを通じて、ESDとは何なのか、持続可能性を妨げているものは何なのか、さらにSDGsを達成するための身近なステップを考えました。

姫路市安富町の奥播磨かかしの里では、15名しか暮らしていない地域が、かかしを置くことによって元気になっていることを、その中心的な役割をしている岡上さんのお話で知りました。さらに、自分たちの身近な地域や学校の持続可能性を妨げているものについても話し合いました。

2019年8月21日、22日には、同じように事前に学び合いをした小中高大学生が姫路市に集まりました。姫路市安富北小学校ではESDプレゼンをしあったり、町に置かれたかかしの役割やその地域の自然環境を実際に見たりすることで、人・自然・社会がつながり影響し合うことがなによりも大切であると知りました。

そこで私たちは、地球・環境・社会・人に対して関心が無くつながりを持とうとしないこと、他人よりも自分の得になることしか考えていないことが問題だと気付きました。

この問題を解決するために、自分と違った文化に興味をもち、学び続けることを大切にしたいと考えました。そうすれば、性別、年齢、育ってきた生活などの違いを超えて、すべての人がお互いを思い合い、支えあい、共に生きることができると思います。

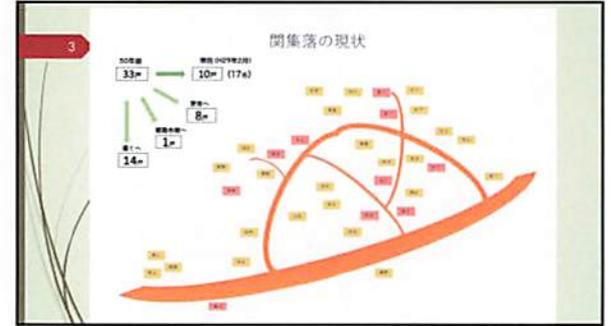
さらに、私たちが普段の生活で考えるべきこと、すべきことは何か、意見を出し合い、次の約束を決めました。

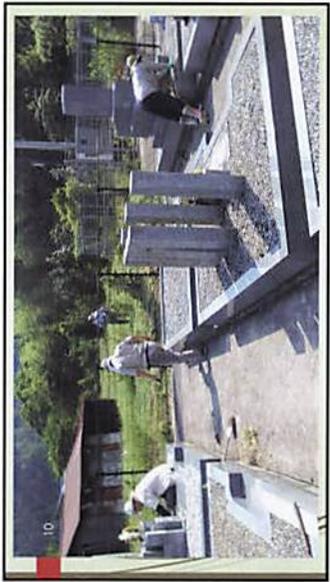
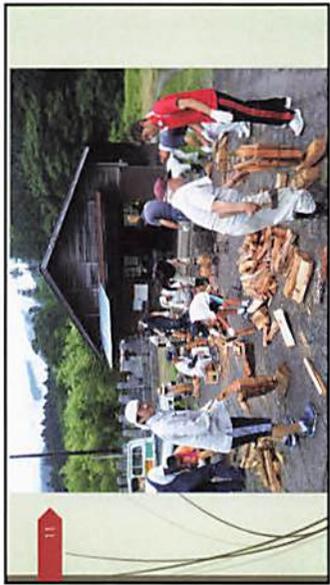
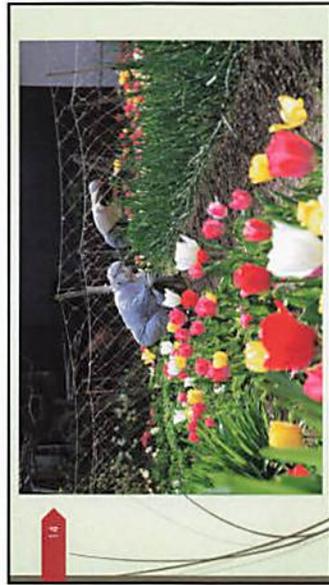
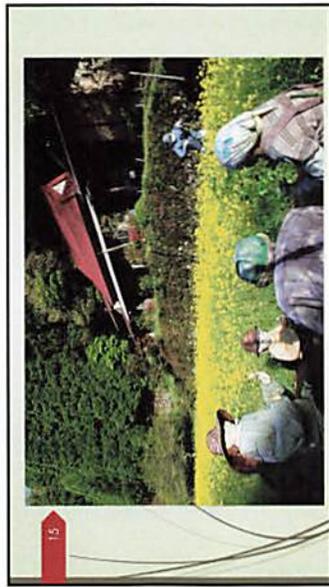
1. 自然に親しみ、理解し、自然との関わりを持ち続ける
2. 自分からおたがいを知る気持ちをもつ
3. 自分からあいさつをする(コミュニケーションを取る)
4. 自分の家や学校のまわりについて関心をもち、家族や近所の人と話す
5. 上の4つのことから、昔からある大切なものを協力して未来へつなぐ

これをもって、私たちの共同宣言といたします。

資料

- ・第2回セミナーで講演をいただいた
「奥播磨かかしの里」紹介 プレゼンデータ
- ・ESD/SDGs 学びあい交流会で発表された
参加校・地域からのプレゼンデータ
- ・全参加者一覧





安富北小学校

ESDの取り組み

可持续发展教育



安富北小学校

創立140年 创办有140年历史
全校児童35人 姫路市でも一・二を争う小規模校



全校共有35名児童 却也是姫路市数一数二の小規模学校

安富北地区における課題

安富北地区に住む人達の高齢化が進んでいる。若い人が少なくなり、子どもがいない地区もある。人間関係の希薄化地域の学校として地域の人々からの支えは必要となる。

原住在安富北地区の人口老龄化问题愈加严峻。年轻人越来越少，甚至有些地区没有小孩儿。作为人际关系愈发乏少的地区的学校需要这个地区人们的支持。

目指す児童像 希望培养出这样的儿童

自分の町を大切に、誇りに 盛り上げたい 児童の育成
珍惜自己的家乡，为自己的家乡感到骄傲，想要建设自己的家乡。



柱1 伝統文化の継承 第一点 传承传统文化

日本の伝統文化を今でも継承している
时至今日也传承着日本的传统文化

取り組み 所做的努力

- ①太鼓(5・6年) 太鼓(5・6年级)
- ②傘踊り(3・4年) 伞舞(3・4年级)
- ③すもう大会 相扑大会

和太鼓 日本鼓

5・6年生の総合学習の一環として行っている。地域の祭りや姫路市の行事で年に数回和太鼓を披露している。

作为5・6年级学生的综合学习中的一环，会学习日本鼓。一年多次的在地区的节日和姫路市的活动中进行表演。



傘踊り 伞舞

伞舞作为3・4年级学生的学习发表会的节目，每年都会进行训练。除此之外，也会在学校举办的地区交流活动中进行表演。

3・4年生の学習発表会の出し物として毎年練習している。学習発表会だけでなく、学校で行う地域ふれあい活動でも披露している。



すもう 相扑

毎年10月に学校行事として相撲大会を行っている。1年生から6年生の男女で相撲をとっている。地域の老人クラブの方々にも役割を手伝ってもらっている。

在每年10月，作为学校活动，会进行相扑大会。1年级到6年级的男生女生中举行相扑活动。地区的老年俱乐部的人们也会帮忙一起参加。



柱2 環境学習 第二点 环境的学习

自然環境を学び、守っていく。学习和保护自然环境

取り組み 所做的努力

- ①ホタル学習 萤火虫学习
- ②農園 农园活动
- ③エコキャップ活動 环保瓶盖活动

ホタル学習 萤火虫学习

3・4年生の総合学習の一環として行っている。詳しくは3・4年生の発表から

萤火虫学习是3・4年级学生的综合学习中的一环。具体请看3・4年级学生的发表。



農園活動 农园活动

全校児童でそれぞれの野菜を育て、収穫を楽しむ。

全校的学生种植各种各样的蔬菜，体验丰收的喜悦



エコキャップ活動 环保瓶盖活动

安富北小学校の運営委員会の活動の一つである。ペットボトルのキャップを集め、ワクチンの購入にあてる。運営委員会から全校児童に呼び掛け、収集する。

这个市安富北小学的管理委员会的活动之一。收集塑料瓶盖，用于疫苗的购买。管理委员会会召集全校学生一起收集瓶盖。



ありがとう ございました！

谢谢大家



安富北小学校 ホタルの学校

ほたるのことを、いっぱい
してね。

请做很多关于萤火虫的事情。

これは、ホタルさい取のじかん
びをしているところです。

这是一个萤火虫聚集的地方。



ホタルさい取
萤火虫集合



ホタルの交尾

交配萤火虫

*ほたるは、交尾するとき、せなかにお
すを、のせる。

交配時、萤火虫将雄性放在背上



ホタルの卵

萤火虫卵

*ほたるは、1ぴきにつき500
こから1000この、卵を産む。

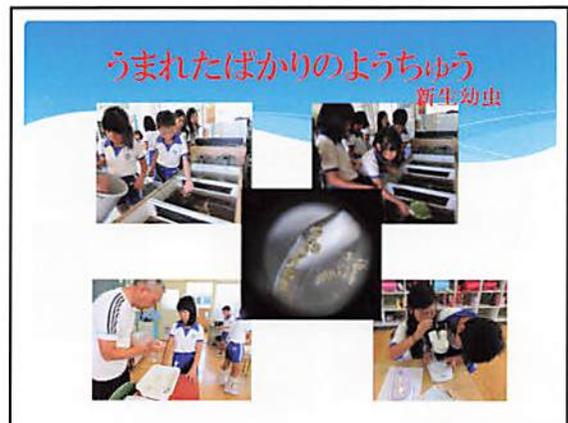
萤火虫每只动物产下500至1000个卵。

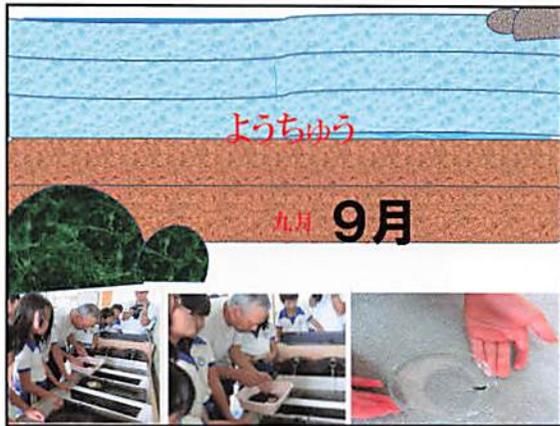


かざんれきをあらっています

我正在洗火山







私たちの考えるESD —身近な異文化理解を例として

中国人民大学附属中学
薛可欣、張林、張希玥、于懷洵、王思蘊、劉優陽

学校紹介

- 北京市西北部に位置する中高一貫校、生徒数は合計6000人以上
- 高等部:普通科・国際カリキュラムコース

私たちの学校

学校紹介

- 高等部国際カリキュラム科:生徒数約800人
- 外国人教師:約60人
- 外国人留学生:約200人

学校生活

- Am7:30登校, Pm4:30下校
- 授業は7時間目までであり、学業とテストなどでも重視されている

身近な異文化理解から ESDについて考える

イタリアでの経験 —価値観が揺さぶられた私の収穫

- 異文化に身を置き、“もう一人の自分”を発見
- 良好なコミュニケーションに必要な事:自主性と寛容な態度

パレスチナでの経験

—克服した私の不安な気持ちとステレオタイプ

- 文化や宗教、民族の違いがあっても、人と人は互いに理解しあえる
- パレスチナでもイスラエルでも、平和への賛歌『和平頌』が人気だった



書道が結んだ友情

僕の最初の日本の友達

- 中学まで北京のほかの地区に居た、そこは人大附属中のような恵まれた環境ではない。
- 初めての国外訪問で、多様な文化にとっても興味がある
- 日本でたくさんの「書道の友」をみつけた



漢字で交流！

- これらの漢字、中国語ではどんな意味？クイズ！



Quiz1：“手紙”

Quiz2：“娘”

Quiz3：“大丈夫”

Quiz4: “勉強”

漢字で交流！

- 中国語の中の「日本語」: 経済、科学、文化、物理、漫画、達人、萌え等…
- 中国語の中の「英語」: 「沙发」、「卡拉OK」……
- 異なる言語を互いに学びあうことで、言葉の多様性や生命力が高められる



私たちはどうやって 異文化理解の能力を向上できるか

- ステレオタイプがもたらす誤解と偏見や蔑視を克服すること
- 公平で尊重した態度で、異文化に接すること
- 真摯に自分の文化を学ぶこと
- いくつかの外国語を身につける
- 自分を受け入れ、相手の良い点を素直に評価する
- 自分から挨拶し、声をかける
- 誰に対しても笑顔を忘れない



私たちが考える持続可能な発展社会とは

- 異なる文化が平和に共存
- 誰もが自分の文化を誇りに思い、同時に違う文化も楽しめる
- 全ての人が尊敬をもって暮らし、自分の文化を発展させる権利を持ち、誰もが平等に交流できる
- 人と自然との調和のとれた共存を実現できる



•ありがとう！



入学時と卒業時の英語力

入学時	卒業時
準1級 0%	33%
2級 0%	92%
準3級 28%	100%
3級 55%	100%

英語検定2級 卒業時9.2%
英道能力考試2級 卒業時合格率92%



EMPOWERMENTプログラム



empowerment project
 (活动简介：来自美国的优秀大学生和本校学生进行一周的英语对话)

ユネスコ部 BLUE EARTH PROJECT



联合国教科文组织的 蔚蓝地球活动

ESDに関する問題 (富山市)



富山市が取り組む課題

富山市的課題

- 中心街の魅力喪失
 中心街魅力流失
 去住郊外的人口流失
- 郊外への人口流失
 对机动化的依赖 (对汽车的依赖)
- モータリゼーションへの依存 (車依存)
 自動車保有台数が1.73台/人と全国第2位、自動車の交通分担率は72.2%、通勤目的では83.3%

など

コンパクトシティ・富山市



富山城を背景に位置する「富山国際会議場」
 世界先進モデル都市の選出以来、30近くの国際会議を招き、2014年10月もOECD・富山市による「都市の国際ラウンドテーブル」が開催された。



ガラス張りの美しい「スターバックスカフェ」が人気の富山運河環水公園
 市内から離れた立地にもかかわらず、水辺の景観を楽しむ人々でテラスも満席

小型城市・富山市

「世界先進モデル都市」に選ばれた富山市 被选为“世界先进模范城市”的富山市

※「コンパクトシティ」とは？
 人口減少時代に適応した地域社会のモデル

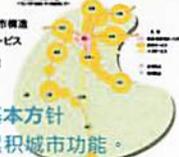
- メルボルン、バンクーバー、パリ、ポートランドとともに「世界先進モデル都市」に選出される。
- ・その他、「環境モデル都市」、「環境未来都市」、「SDGs未来都市」にも選出

地域社会が抱える課題解決のモデルとして注目

【富山市の街づくりの基本方針】

公共交通機関を活性化し、その沿線に居住、商業、業務、文化等の都市の諸機能を集積

<概念図>
 富山市が目指すお隣りと市の都市構造
 市 一定水準以上のサービスレベルの公共交通
 お隣り 車で結ばれた徒歩圏



富山市の城镇规划的基本方针
 振兴公共交通・沿路累积城市功能。

ライトレール=富山市コンパクトシティ構想の中心 轻轨 = 构造富山市小型城市的重心



富山市内を走る路面電車 富山湾



富山湾
 岩瀬浜(電停)
 富山市内路面電車の路線図
 北陸新幹線
 富山ライトレールポータル
 富山駅北(電停)
 富山駅(電停)
 富山地方鉄道
 市内電車
 環状線
 南富山駅前(電停)

2020.2.22 南北接続



富山市中心市街地活性化基本計画
 (計画の3本柱) **促進富山市中心活力**
 「グランドプラザ整備事業」的基本方針
 「市内電車環状線化事業(セントラム)」
 「まちなか居住推進事業」他27の活性化事業を推進

富山市公共交通機関の利用人数的变化
富山市公共交通の利用人数的改变

平成22年度～
 おおむね増加
 因此増加

一方、
另一方面

過疎地域
人口过疏地区

過疎市町村
 過疎地域をみなされる市町村
 過疎地域を指定する市町村

細入地区

山田地区

2つの地域の共通点 连个地区的共同点
人口減・農業従事者の高齢化 人口减少, 农业从业者的老龄化

小規模経営・低生産性 ⇒ ①離農者・転出者の増加
 ⇒ ②耕作放棄地の急増

富山市の地域別人口と世帯の増減率 H27~29
富山市地域別人口と世帯の増減率

山田! 細入!

二地域に顕著な人口減・世帯減が見られる
两个地区的人口和家庭人口大量减少。

耕作放棄地の急激な増加
耕作放棄地面积の増幅

耕地废弃的急剧增加

富山市農業政策への期待

- 農村における人材育成
- 耕作放棄地の適正・有効活用
- 特産物の栽培促進
- 農業の6次産業化

对富山市农业政策的期望

- ・农村人力资源开发
- ・废弃农田的再生和有效利用
- ・推广特色产品
- ・第六次农业产业化



「エゴマ」とは？

シソ科の一年生植物。荳胡麻是什么？
(紫苏科的一种植物)
葉や種子にアレルギー疾患や認知症予防に高い効果を示す成分が多く含まれている。

富山市が全国で初めて大規模な生産および産地化を目指している。

富山市の目標は在日本进行首次大规模生产和生产。



「6次産業化」とは？

1次産業（農林漁業）×2次産業（製造業）
×3次産業（小売業等）

↓
農山漁村の豊かな地域資源を活用
新たな付加価値の創造による所得や雇用確保が目標

6次是产业化是什么

一次产业（农林渔业）-二次产业（制造业）-三次产业（零售业）

↓
活用农山渔村的丰富的地域资源
通过新增的附加价值来确保收入和雇佣

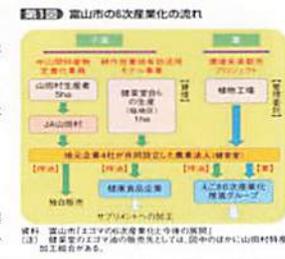
取り組みの経緯（努力的経緯）

2012「富山市環境未来都市計画」
策定→「牛蒡温泉熱等を活用した農業の6次産業化」プロジェクト
チーム設立

2013「健康農業」（地元企業4社の
共同出資による農業生産法人）
設立

2014「地域活性化モデルケース」
（内閣官房）認定

2015「地域再生計画」（内閣総理
大臣）認定・耕作放棄地の買入れ



エゴマの子実生産拡大のための事業

- ①「中山間地域特産物定着化モデル事業」
エゴマ生産者に対して種子代や肥料代を助成。
- ②「耕作放棄地有効活用モデル事業」
市が主体となって耕作放棄地を再生。
新たな担い手に農地や農業機械を貸し付ける。

【事業の成果】

- 栽培面積の拡大 1年目1.2ha、2年目1.9ha、3年目5.0ha
- 生産者数の増加、栽培技術の向上
- 水稲を超える収益
→任意団体「えごま6次産業化推進グループ」による販売
(市内の飲食店など県内約80の団体・個人で構成)
- 商品開発の相談する場として機能、エゴマの搾油後のカスを給飼する「エゴマ豚」のブランド化など。

ご清聴ありがとうございました。
谢谢大家



奈良教育大学附属中学校

Nara University of Education
Junior High School

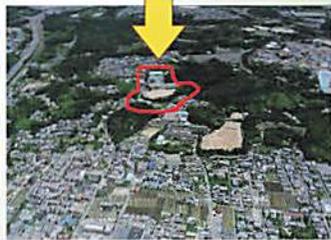
梅 雅美、宇患すずほ、
牧岡真尋、山本あかり、堀田百花

古墳の埴輪
(5世紀のもの)
古墳的土制物品
(5世纪的遗址)



学校紹介

毎日登山のように、坂を登っています。
每天像登山一样需要爬坡



奈良めぐり
邂逅奈良



木のぬくもりが
感じられる図書館
能够感受木制
温暖的图书馆



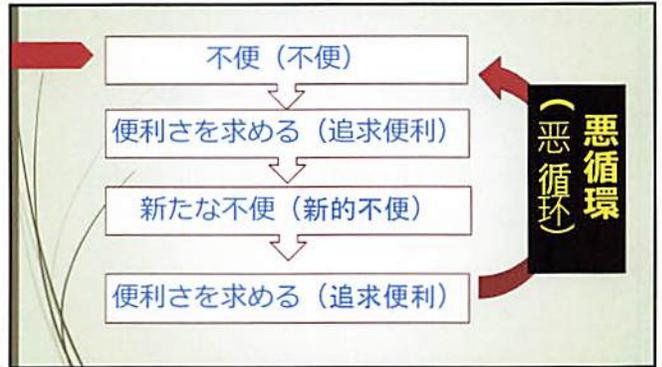
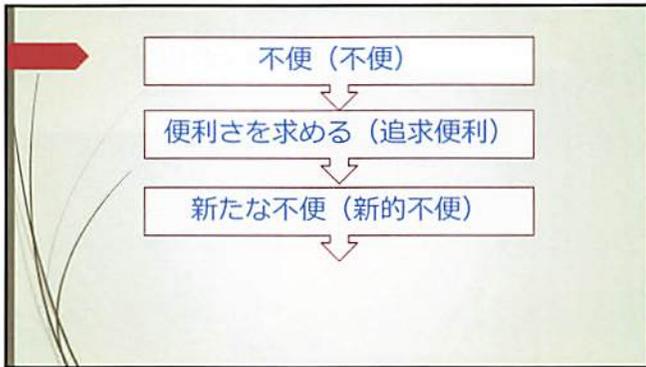
春には、桜の下で学年お花見昼食会をしました。
每到春天，会在樱花树下举行各年级的赏樱午餐会

「持続可能性」をはばんでいると思うこと
认为阻止了“持续可能性”的是

■ 「便利さ」は何かを犠牲に
しないとつukれないのか
~便利さについて考える~

“便利”是以牺牲某种事物的前提下才能获得
的吗

请思考一下什么是“便利”



新たな不便の例
关于新的不便的例子

①「スマホ」は便利。“智能手机”是便利
でも、「持っていないと生活がなりたない」。
「インターネットのトラブルもおこる。」
但是，“没有手机的话无法生活”，“在互联网上也会
会有冲突”

②「車」は便利。“车”是便利
でも、排気ガスが出る。大気汚染。
但是，会排放尾气。大气污染。

今回の合宿で一緒に考えたいこと
在这次合宿中想要一起思考的东西

▶「便利」の反対は、
「不便？」なのか。
“便利”的对立面是，“不便”吗

新たな不便の例
关于新的不便的例子

③「都会」は便利。“城市”是便利
でも、自然が少ない。空気がきたない。
但是，自然会减少，空气也会变得不干净。

▶「便利」の反対は、そもそも
何だろうか？
那么，“便利”的对立面是是什么呢

二日間、どうぞよろしく申し上げます。
ご静聴ありがとうございました。
谢谢你两天 谢谢你的关注

地域の課題

家附近的课题
 大阪・関西ユネスコスクールネットワーク
 大阪・关西 ASP net

①町の整備について

城市建设

具体的な例 例如

- ・防犯カメラが動かない... 监控录像不动作
- ・道路が狭い! 狭隘的路
- ・信号がない(T_T) 没有红绿灯。 etc.

②近所付き合い

和邻居交流

- ・昔:ふれあい・つながり
过去: 友谊的交流
- ・今:インターネット
现在: 网络

③全ての人との共生について

大家与自然共生

例えば.....具体的例子

高齢者 老年人	障がいを持っている人 残疾人	外国人 →マナー 外国人 →礼貌
------------	-------------------	---------------------------

根底にあるもの/根本

当事者
意識低い
没有意志或者积极性

今、自分たちがしていること

我们现在执行的活动

- ・このセミナーに参加していること
参加这个学习会
- ・ボランティア活動に参加していること
参加志愿活动
- ・ニュースや本で問題を知ること
通过看新闻节目和书来知道各种各样的社会课题

一 参加者一覧〈順不同〉一

※1.安富北小学校は低学年が含まれているため「他31名」と記している。

※2.お名前は届けられた名前（名簿登載者）のみを記している。

【中国・中国人民大学付属中学（小学校・中学校・高等学校）】〈児童・生徒〉王思蕴、刘优阳、张希玥、于怀渊、薛可欣、张林、〈教員〉张冬梅、杨杰川。【アサンブション国際小学校】〈児童〉服部風子、田中心雪、玉木柚子、〈教員〉三宅理磨（副校長）、阿弥博子、蒲生邦博、川尻沙織、谷口晴香。【大阪市立晴明丘小学校】〈児童〉藤川拓弥、西中雛姫、山口萌衣、金沢良守、川上翔聖、〈教員〉金子瑛。【姫路市立安富北小学校】〈児童〉上田健太郎、古井啓太郎、上所菜々実、山本真衣、他31名、〈教員〉谷口晴久（校長）、東末菜穂子、吉田充徹、石堂奈摘、黒田圭介、山下重美、小河 幸代、萩原稜、谷口登志夫。【神戸市立大沢中学校】〈生徒〉東本怜士、〈教員〉古賀英貴（校長）、小畑幸一。【国立奈良教育大学附属中学校】〈生徒〉梅雅美、牧岡真尋、宇恵すずほ、山本あかり、堀田百花、〈教員〉吉田寛。【国立神戸大学附属中等教育学校】〈生徒〉井川あすか、馬場貼己、波多環苑、松浦茅南、北原彩羽、〈教員〉岩見理華、軽尾弥々。【国立大阪教育大学附属高等学校池田校舎】〈生徒〉西口直輝、石川蘭、芳田理子、安東吉平、和田香里、〈教員〉池内遼太郎、中尾愛夢、治部浩三、山脇一輝。【大阪府立池田高等学校】〈教員〉小林孝徳。【大阪府立北淀高等学校・淀川清流高等学校】〈生徒〉立花桃葉、〈教員〉無津呂弘之（校長）、畠山尚之、安岡真由美。【大阪府立佐野高等学校】〈生徒〉三宅愛未、〈教員〉房本進吾、向井小雪。【大阪府立住吉高等学校】〈生徒〉大橋真衣、伊藤日和、〈教員〉中川潤一、藤井千恵子。【大阪府立富田林中学校・高等学校】〈生徒〉下岡美月、鈴木凜愛、岡本音和、田中健太郎、井上結菜、寺田凜、西浦彩音、西田和麻央、村山桃亜子、中田亜依菜、〈教員〉木村里美、三島寛子。【大阪府立長野高等学校】〈生徒〉木内広美、寺澤綾香、森下華穂、山田彩乃、岡本麻美、平妃奈乃、〈教員〉棚田萌子、中窪恭子。【大阪府立能勢高等学校・大阪府立豊中高等学校能勢分校】〈生徒〉新谷流生、西山京、濱颯太、金沢麗沙、泉明日美、森村虹海、〈教員〉市橋菜津美。【大阪府立松原高等学校】〈生徒〉中川魁都、尾崎美晴、土肥愛帆、花崗璃奈、〈教員〉井上智賀、岡田綾。【富山国際大学附属高等学校】〈生徒〉荒井夏実、山辺雄翔、石附恵佳、川島美優、嘉戸理沙子、〈教員〉伊井昌彦。【奈良県立法隆寺国際高等学校】〈教員〉元根暁。【兵庫県立川西明峰高等学校】〈生徒〉豊川沙音、福山萌夏、長瀬慧、中原美月、〈教員〉安藤司晃、佐藤根隼一、松井健太郎、森田光彦。【和歌山県立橋本高等学校】〈生徒〉下田朋花、杉本花、村上綾香、〈教員〉山田大貴、祭貴貴美子。【大阪信愛学院中学校・高等学校】〈教員〉矢嶋哲。【大阪成蹊女子高等学校】〈生徒〉喜多遥花、亀谷実玖、藤松由衣、〈教員〉上坂瑞穂、奥村和気、川本明香、菊川太郎。【香里ヌヴェール学院小学校・中学校・高等学校】〈教員〉田村かすみ、大江実夏子。【帝塚山学院中学校・高等学校】〈生徒〉小川華穂、梶原萌、加藤愛理、高橋玲衣、辰己鈴珠、福本莉紗子、三村香穂、森葉音、北山慧、小林真佳、嶋田真緒、嶋田美羽、進藤愛子、西田日向、長谷部彩乃、八万真悠子、山下泰葉、〈教員〉遠藤麻央、竹村紗季。【奈良育英中学校・高等学校】〈生徒〉岩本佳乃、梶山紗世、高森望、佐藤舞香、木下雄介、〈教員〉近藤駿太郎、沼田守弘、原條靖之、松本真紀、宮下陽帆。【京田辺シュタイナー学校】〈児童生徒〉松野下笑吉、三木建命、若林崇仁、水田千覚、〈教員〉太田祥仁。【関西大学】〈学生〉上松雄大。【大阪警察病院附属看護専門学校】〈学生〉松賀美咲。【奈良大学】〈学生〉中野楓菜。【京都大学】〈学生〉張曉玲。【大阪大学】〈学生〉谷俊作。【大阪経済大学】〈学生〉安田武樹。【大阪デザイナー専門学校】〈学生〉安田壮希。【大阪府立大学】〈学生〉黒川あずさ、柴田祐里菜、楊夢宇、李広民、周寧寧、史佳煒、〈教員〉伊井直比呂。

異なる地域・国、異なる学校種、異学年による「多校間ネットワーク」の歴史と学びの効果

大阪・関西ユネスコスクール（ASPnet）ネットワークは、2003年に国立・公立・私立3校がASPnetに加盟して形成されたことが起源である。当初からESDをテーマとした学びあい（Mutual Learning）を基本として、異なる文化を有する学校の協同・協働実践が開始された。その後、2009年に大阪府立高校や大阪市立小中学校の他、私立学校・他府県の加盟校を加えて、規約を有する現在のネットワーク組織となった。このネットワーク活動を可能にしたのは、三つの大きな要因があったことによる。

一つはUNESCO ASPnetの組織理念そのものが、先進国、開発途上国、(かつての)社会主義諸国、資本主義諸国、異なる民族・文化に関係なく対等に学びあうという基本原理があったことである。実際、2003年にニュージーランド・オークランドで開催されたASPnet50周年国際会議では、あらゆる政治的・経済的背景、そして宗教的背景などによる主張は行われることなく、人権と教育との関係から、ユネスコ憲章前文に記される「平和の文化」をいかに築くか、という一点で議論が為されていた。また、遡ると、あの有名なバルト海周辺9か国によって現在も開催されているBaltic Sea Projectは、(信じられないことに)東西冷戦のさなかに準備され、1989年4月に両陣営内のASPnet校が鉄のカーテンを超えて「学びあい」を開始した。UNESCOの力はここにある。まさに憲章前文の意味の通り、自国の利益のためだけの教育ではなく、世界や人類のための教育という崇高な実践の歴史を築いていた。このことは、直ちに大阪でのネットワーク活動にも取り入れられた。つまり、加盟校各校の教育方針や学校文化に一切の優劣をつけたりすることなく、加盟校が担っている各役割と抱える課題を踏まえつつも、共通の可能性を拓く平和の文化を「協同」と「協働」をしながら「学びあう」ということである。

二つ目はESDが国際的な教育(学習)の基盤として位置づけられていることである。端的に、持続可能な社会は誰のための社会なのか、という基本的な問いを持つ時、先進国にとっての持続可能な社会や多数者・社会的強者にとってのみの社会を求めることがその目的であるはずはなく、開発途上国や社会的マイノリティとして暮らす人、また経済的に脆弱な人にとっても等しく持続可能な社会とならなければ、そもそも「持続可能な社会」になり得ないことは自明である。それゆえにSDGsの目標群なのである。このように考える時、ある一定の立場や地位から持続可能性を追究したり提案したりしたところで、それは自ずと異なる一方の犠牲を前提にしていることになりかねないことを常に省察することになる。

三つ目は、多様性の中に小学生から高校生までの異学年集団(ファミリーと称している)を形成して、異年齢という多様性の要素を加味したことである。これは持続可能な未来や社会を考える時、大人とは異なる高校生の見え方が重要であるように、小学生が有している未来の時間の長さゆえに見えるものの異相があるということである。そして、子ども・若者世代として自己の成長や幸福追求と同期(リンク)させた社会づくりであるということに、この学びあいの大きな意義が存在しよう。

以上より、大阪・関西ユネスコスクール(ASPnet)ネットワークは、既存の特定の能力観による序列化や特定のステータスを有する学校による連携ではなく、まさに人類や世界の多様で多面的な諸相の中にあっても常に自己の成長を懸けた学びあいが行われ、異なる児童生徒が相互に安心して学びあえる「ネットワーク」を心がけてきた。今次、遠く富山県や兵庫県宍粟郡、奈良県、和歌山県からの参加を意図してネットワークを拡大して臨んだことは、確実に私たちのESDの領域を広げさせた。また、中国からの参加は、政治家の代弁とは全く異なる視点で、共通する未来を描くことを可能にした。今次のネットワーク活動はESDを地域視点だけでなくESDを面として捉える作用をもたらしたと言える。(伊井)

発行日 2020年3月10日

発行者 大阪・関西ユネスコスクール（ASPnet）ネットワーク

編集 同 ネットワーク事務局長 治部浩三（大阪教育大学附属高等学校池田校舎）
大阪府立大学人間社会システム科学研究科 伊井直比呂
同研究科 M1 黒川あずさ、楊夢宇

印刷 株式会社ひまわりぷりんと（〒599-8232 大阪府堺市中区新家町 691-5）